

1-4

演題	病院での難事例に特養は何をしたのか
副題	～難治性褥瘡治癒好事例（多剤服用の視点）～

多剤服用
ケア会議

法人名	社会福祉法人 愛生福祉会
施設名	特別養護老人ホーム 田谷の里

発表者名 (職種)	笹本 雄大 介護職員
共同発表者	佐田 農
共同発表者	菅野 陽平
共同発表者	近藤 浩平
共同発表者	坂本 匠

都道府県	神奈川県
住所	横浜市栄区田谷町 1364 番地 2
TEL	045-852-0012
FAX	045-827-3866
メールアドレス	tayanosato@aiseifukusikai.jp
URL	https://www.aiseifukusikai.jp/facility/tayanosato/

今回の発表施設 またはサービスの 概要	ご自宅にいる時のように、その人らしくのびのびとした日常をお送りいただけるよう、お手伝いをさせていただいています。四季折々のお料理や、催し物などを通じて、安らぎとぬくもりのあふれる毎日をお過ごしいただけます。
---------------------------	---

研究の目的、PR ポイント

治療が困難であった両踵に発生した褥瘡に対して、特養ではどのようにアプローチすればよいのか。両踵に発生した褥瘡が、治療が必要ない状態にまで回復しました。入居時の DESIGN 評価点数 12 点 (D2-e0s6i0g6n0p0) が治癒した。

取り組んだ課題

ポリファーマシー（多剤服用）の観点から見直し改善に向けて検討する→リスペリドン（2022 年 4 月頃より服用、夕食後に 0.5mg 服用）と下剤（アミティーザカプセル 24μg グーフイス錠 5mg）

具体的な取り組み

褥瘡の治癒に有効な方法を考察すべく、服薬状況から見直す。（不要な服薬を洗い出し除薬）
栄養面において、食事が全量食べられて栄養を摂ってもらう。
毎日足浴で清潔に保ち、医務処置にて治療する。

活動の成果と評価

服薬していた抗精神薬（リスペリドン）を除薬し、覚醒状態が良好、自力での食事や、物を取ろうと手や体を動かす、ベッド上での寝返りなど自発的な活動が増え、活気が良くなる。
食事摂取状況が向上し栄養が取れ、体動が増えて両踵の除圧につながり、結果として褥瘡の完治につながった。

今後の課題

抗精神薬（リスペリドン）を除薬し、覚醒状態が良好、活気が良くなった様子で、体動（腕をこする等）が増えたことにより四肢や体幹の傷や痣（内出血や表皮剥離）が増え、転落などの事故が起こるようになった。
この問題行動に対してどう対処していくか。

参考資料など

改定 DESIGN-R®2020 コンセンサス・ドキュメント